

平成 16 年度日本痴呆ケア学会読売痴呆ケア賞「奨励賞」



林 崎 光 弘

社会福祉函館光智会グループホーム函館あいの里・理事長

1941（昭和 16）年 6 月 30 日

【授賞理由】

林崎氏が携わってこられたグループホームに対する考え、またグループホームの普及、ネットワーク化等に対する精力的な活動に対し、本賞を授与し、讃えるとともに今後ますますの活動を期待するものである。

【略 歴】

1960 年 4 月～1967 年 3 月 医療法人佐々木病院

1967 年 4 月～1988 年 12 月 医療法人亀田病院

1967 年 3 月 函館市看護養護養成所

1967 年 5 月 准看護師取得

1984 年 3 月 社会福祉主事任用資格取得

1991 年 3 月～現在 グループホーム函館あいの里

【業績および功績】

20 年あまりの看護師としての経験で、病院や大型施設での痴呆性高齢者の処遇に限界を感じ、病院を退職。その後、漠然とした理想を確固たるものにするため諸外国を巡り、スウェーデンでグループホームと出会う。日本に帰った後、制度や法律の壁に直面しながらも 1991 年に念願であった痴呆性高齢者のグループホーム開設を実現する。

1994～1996 年までの国の痴呆性老人のためのグループホームのあり方に関する調査研究事業のモデル施設に指定され、日本でのグループホーム制度確立に一躍をかう。1997 年には北海道痴呆性老人グループホーム研修テキスト検討委員、北海道身体拘束ゼロ作戦推進会議委員など行政からの委託業務を精力的にこなす。一方、グループホーム事業者のネットワーク作りにも携わり、1998 年に全国痴呆性高齢者グループホーム協議会の設立に尽力する。

その間にもスウェーデンに渡り、シルビアホームのバルブロ・ベック・フリス所長のもと、さまざまな研修を受け、ターミナルケア等について学ぶ。最近では、「初期から終末期に至るまでの地域に密着した望ましい痴呆性高齢者ケアのあり方に関する調査研究」（医療経済研究・社会保険福祉協会）の副委員長に就任し、グループホームにおけるターミナルケアの可能性等についての調査研究を行う。また、痴呆介護ヘルパー養成研修向上のため研修体制の整備などの研究を進め、痴呆介護の最前線でさまざまな取り組みを行っている。

〈主な著書〉

『痴呆性老人グループホームケアの理念と技術；その人らしく最期まで』（共著）、バオバブ社；星雲社（1996）

『グループホームの空間設計とケアシステム』（共著）、綜合ユニコム（1997）